ねじりはちまき

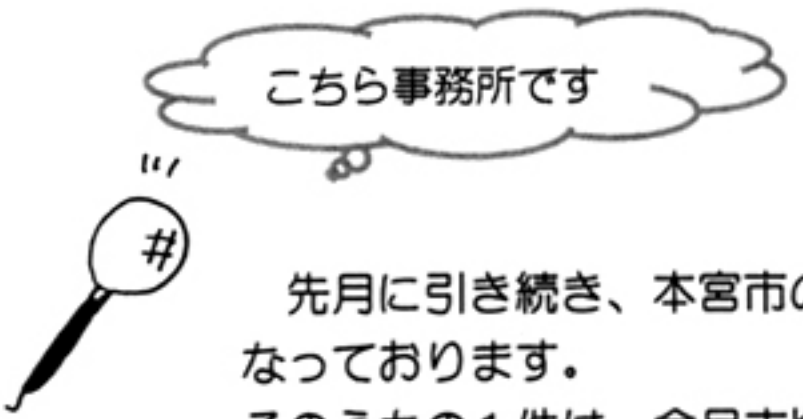
１１月　霜月　立冬　小雪の月となりました。
１１月３日　文化の日、８日　立冬です。１５日　七五三、２２日　小雪、２３日　勤労感謝の日です。

１１月１５日は「亥の子の日」といって茶人の正月ともいわれ、茶家では炉を開く「炉開き」を行うのがならわしで、初夏に摘んで寝かせておいた新茶の口切を行います。
　茶室の畳や障子など真新しく整えられ、茶家の正月としてお祝いをします。昔は茶家だけでなく普通の家庭でも、亥の子の日にこたつなどを出していました。イノシシは火を防ぐ動物と考えられており、この日に火を入れることによって、火災にあわないとされてきたようです。
この様なことにこだわれば、少しは気が休まりますね。

　夜が寒くなって来たこの頃ですが、厳しい冬を健康で過ごすためにもどうぞご自愛専一に。

幸田　常一

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊



　先月に引き続き、本宮市の現場で新築工事を２件お世話になっております。
そのうちの１件は、今月末頃には完成いたします。

夢を見続ける男　NO55

仏像の世界

今回は仏像のことを取り上げてみたい。我々は菩提寺を訪れれば先ず安置されている仏像を拝む。旅先で著名な寺院を拝観すればこれまた安置されている仏像を拝む。思わず手をあわせてしまう。いずれの仏像も尊く拝される。その拝む仏像はどの寺院も同じではない。宗派により異なるのかも。では、どんな種類の仏像があり、それぞれどんな使命・役割があるのか。そして、そもそも仏像の起源はどうなのか。その仏像が仏教伝来とともに日本にどう伝わり、日本独自のものとなっていったのか、などどれだけ書けるか分からないが、これから辿ってみたいと思う。どうぞお付き合いください。

先ず、仏像の定義じみたことをいうと、仏像とは仏教の信仰対象である仏の姿を表した像のことである。では、仏とは何ぞや。仏（仏陀や如来とも称される）の意味は、「真理に目覚めた者」「悟りを開いた者」を表している。それでは仏教の開祖は釈迦であるが、インドで悟りを開いて「仏」となり、「仏陀・釈迦牟尼仏」と称されるようになる。紀元前５世紀のことである。釈迦入滅後、紀元１世紀ごろになると、仏教は小乗仏教(上座部仏教)と大乗仏教に別れ、そのうちの大乗仏教がガンダーラ（現在のアフガニスタン東部からパキスタン北部）→中国とシルクロードを経由して朝鮮半島から６世紀に日本に伝えられるのだ。

仏像の方はどうだったのか。どうも仏像は仏教誕生後５００年間造られることがなかったようだ。ではいつ頃、どこで、なぜ造られるようになったのか。仏像が製作されるようになったのは、どうも紀元１世紀頃で、先ずガンダーラにおいて、前後してマトゥラー（インド）でも製作されるようになったとのこと。釈迦亡き後追慕の念から信仰の拠り所を求める動きがそうさせたのだろうと言われる。併せて仏像という造形はギリシア・ローマの彫刻の影響があるとみられる。仏像と言えば、ソ連のアフガニスタン侵攻時（１９７９年）にゲリラの拠点にあったガンダーラ仏像遺跡（バーミアン渓谷の２つの大仏）が破壊されたことがあった。誠に残念なことである。また、仏像遺跡と言えば、仏教がシルクロードを伝わる途上に仏像の遺跡が中国各所に遺されている。その代表格が世界遺産になっている敦煌の莫高窟遺跡である。行かれた方もあると思う。莫高窟は６００余りの洞窟に２４００余りの仏塑像が安置され、壁には壁画が描かれている。どれ位の期間をかけたものか。どうも紀元４世紀から１０００年くらいかけて彫り続けられたものらしい。その信仰心にはただ驚嘆するばかりである。また、今日までよく保存に努めて来られたものと思う。

さて、仏教の日本への伝来であるが、交流の活発であった朝鮮半島の百済（くだら）から６世紀半ばに日本へ伝えられる。欽明天皇に百済王から金銅造の釈迦如来像と経典が贈られたと日本書紀等に記録がある。その時仏像が日本に渡ったのである。その後推古天皇（摂政聖徳太子）の飛鳥時代に「仏教興隆の詔」により仏教が奨励され、６世紀末に本格的寺院として日本初の法興寺（現飛鳥寺）が建立され、仏像（釈迦如来坐像）が百済渡来の仏師によって彫像される。さらに、法隆寺の釈迦三尊像も同じ百済の仏師によって彫像される（この頃は金銅造)。こうして日本においても渡来人により仏像が造られるようになる。

奈良時代になると、仏教はさらに国家的宗教として奨励され、平城京を始め全国的に寺院や仏像の建立ラッシュとなり、いわゆる仏教芸術が花開いたのであった。仏像については、仏像を造営する工房として官立の造仏所まで設けられたのである。このような中で、仏像彫刻自体も変化し、唐の影響を受けての新しい様式や乾漆・塑像などの新しい素材が用いられるようになる。こうして、仏像は仏教信仰の拠り所として寺院に不可欠の存在になる。

さて、それでは今日見られる仏像の種類を見てみよう。本当は写真で見ていただくと分かりやすいのだが、勘弁していただきたい。仏像は、如来・菩薩・明王・天部の四つのグループに分けられるという。では、それぞれの特徴的なところを紹介していきたい。

①如来：如来は仏の尊称、修行を完成して真理即ち悟りを開いた人を指す。如来は三十二相八十種好と呼ばれる身体の特徴を持っているといわれ、如来像もこれを表現

している。この如来像には、釈迦如来・盧舎那仏・薬師如来・阿弥陀如来・大日如来の五つがあり、いずれも座像が多い。ではそれぞれどう違うのか見てみよう。

㋐釈迦如来：悟りを開いた唯一の実在の人物、釈迦を表す。三尊形式の場合は脇侍として文殊菩薩と普賢菩薩が付く。

㋑盧舎那仏：蓮華蔵世界に住むとされ、蓮華座の上に座す。奈良・東大寺の大仏がこれである。

㋒薬師如来：東方の瑠璃光浄土に住むとされ、病気平癒の信仰を得ている。像の手には薬壺（やっこ）を持っている。三尊形式の場合は脇侍として日光菩薩と月光（がっこう）菩薩が付く。

㋓阿弥陀如来：法像菩薩が四十八の大願を立てて如来となり、西方浄土で説法を行っているとされる。脇侍には観音菩薩と勢至菩薩が付く阿弥陀三尊の形をとることが多い。

㋔大日如来：密教において宇宙そのものと考えられている如来である。顕教の如来と異なり、頭髪を結い上げ、宝冠を頂き、その他様々な装飾品を付けている。　(注)密教の宗派：真言宗・天台宗

②菩薩：如来になろうとして修行を積む人の意である。如来像のように印を結ばず、持物を持っている。多くは立像である。菩薩にも種類があり、観音菩薩・地蔵菩薩・普賢菩薩・文殊菩薩・弥勒菩薩の５つがある。

このうち観音菩薩は、十一面観音菩薩・千手観音・馬頭観音・不空羅索観音・如意輪観音などの種類がある。京都の三十三間堂には１０００体の千手観音が安置されており、その壮観は目を奪うばかりである。

文殊菩薩については仏の智慧を象徴し、学業祈願の信仰の対象となっており、子供や孫の受験合格を祈願されたことがあることでお馴染みであろう。

③明王：密教信仰特有の仏像で、未だ教えに従わない救い難い衆生を力尽くしでも帰依させるために遣わされたもの。その代表的なのが不動明王である。

④民部：仏法を守護する役目。四天王（持目天・増長天・広目天・多聞天）、八部衆（天・竜・夜叉・阿修羅などの八人）、金剛力士（仁王とも呼ばれる）、梵天、帝釈天、吉祥天、弁財天が挙げられる。このうち最後の弁財天はそもそも弁才天といわれ、それに財宝神の性格が付与されて「七福神」の一員に加えられたという。

以上仏像の種類を見てきたが、これらの仏像造りに用いられた素材や技法は時代とともに変化をみせている。先ず金銅仏や石造に始まり、塑造（粘土を盛り上げて造形する）や乾漆造（粘土の原型の上に麻布を漆で貼り重ねて造形し、後で内部の粘土を取り出す）へ発展し、そして日本で多用されたのは木造である。この木造には一本造、寄木造などがある。このようにして仏像は造られてきているが、これには彫像に携わる多くの仏師の存在があったことを忘れてはならないだろう。当初は渡来人から始まり、やがて日本人独自の素材や技工を生み出し、後世に永く伝えられる数々の仏像が彫像されていくのである。

最後に日本の仏像はいかにも柔和な面立ちをして慈愛に満ち、しかも威厳を備えている、そんな印象を受ける。人々は仏像を通して何を求めるのか。抱えている悩みをすべて掬い取ってくれることを願うのか。仏教において仏像の存在は大きいものがあるといえる。

錦秋の四国４山、四国の三百名山終了

【今回登った山の概要】

（登った日程順　◎は日本二百名山、○は日本三百名山）

1　三本杭　（○さんぼんぐい、1226m）

2　篠山　（○ささやま、1065m）

3　三嶺　（◎徳島県ではみうね、高知県ではさんれい 1894m）

4　伊予富士（○いよふじ、1756m）

○11/1　20：20 東京駅から夜行バス乗車。バスタ新宿で座席の約半分ぐらいが埋まる。シートを倒し、持参のU字の空気枕で就寝。

○11/2　三本杭

四国は海と山が近い。高速道路から見る瀬戸内の海は穏やかで海に浮かぶ小島が、変な表現だが高い山でよく見られる雲海に浮かぶ山の頂に見える。雲はあるが明るく晴れている。

8：40 松山駅着。割とこじんまりした三角屋根の駅の写真を撮っていたら、駅の並びの左側に「喜多方ラーメン」の店があった。

徒歩 5 分のレンタカー会社で車を借り 9：00 三本杭の登山口に向かう。

距離はナビによると約 100ｋｍ（うち高速道路は 65ｋｍ位）だが、山間部に入ると道が狭く思ったより時間がかかり、万年橋登山口着 11 時半。滑床自然休養林に指定されていて、近くに松野町営の森の国ホテルなどがある景勝地。

広い駐車場には車が数台あり、熟年のグループが弁当を広げていた。

三本杭の山名は藩政時代に、宇和島藩、吉田藩、土佐藩の三本の領地の境界標柱に由来するとのこと。（那須の三本鎗の山名の由来に似ている）

コースは万年橋からは、滑床渓谷を経由して三本杭に登り御祝山（おゆわやま、998m）を経由して左回りに周回するコースと、渓谷を通らずに御祝山経由で三本杭をピストンするコースがある。12 時スタートとした場合、周回コースは 6 時間位なのでスムーズに行っても暗くなってしまう。ピストンは 4 時間くらい、これでもギリギリくらい。

ピストンにしようと思って万年橋から遊歩道を渓谷を眺めながら歩いていたが、御祝山に行く標識が見つからずに 1 時間ほど歩いてしまった。途中下山する熟年のご夫婦と立ち話をしたら、御祝山へは橋のたもとからすぐに左側の道に入るとのこと。標識が何種類もあったのを十分確認しなかったミスだ。

さてどうしようかと考えたが、通常であれば出発点に戻るのが原則であるが、戻れば時間的に考えて、三本杭登頂をあきらめざるを得ない。3 日分の宿泊所も全て予約してあるので、明日もう一度出直すことはできない。

暗くなって下山するのを覚悟してこのまま渓谷を歩くことにした。ヘッドランプはちょうど1年前に、ランプの明かりが弱いため何度も目印のテープを見失い、13時間半を要した池口岳（◎南アルプス2392m）山行に懲りて、充電式の強力なランプに換えていたので、なんとかなるだろうと思った。

滑床渓谷の景観は実に見応えがあり、花崗岩岩盤上の滑状の流れで川床から峰までの深さがかなりあり薄暗い。ハイキングコースとして整備してある遊歩道は歩きやすく、奇岩、滝が沢山あり素晴らしかった。雪輪ノ滝は幅が広く落差もあり（長さ80m、幅20m、勾配35度程度）、道路標識で案内されていた。

雪輪橋を渡り、右岸を上流に進んで行くと登山者の領域になる。ひたすら先を急ぐ。途中千畳敷やＳ字峡、鼓岩などの案内板が整備されているところは紅葉と相まって素晴らしい景観だ。

2つの渓流が交わる奥千畳敷は緩やかな広い滑の間（滑床）を水が流れている。次第に沢から離れ、熊のコルと呼ばれる三本杭と八面山（やづらやま）との鞍部に出る、14：20。谷を挟んで正面は高知県側の山で空は雲が多くなってきた。明るいうちに下山できるかも知れないと楽観する。

尾根上の左側の道を進みブナ林の急坂を登り、鹿の食害の防護柵を開けてススキの茂る一等三角点のある山頂に着く。14：45。

小広い山頂には30代くらいの男性登山者がいて三脚のカメラを置いて食事をしていた。聞くと岡山県からマイカーで来たＦさんとのこと。登山口を朝8時に出て渓谷の写真を撮りながら来たとのこと。ユッタリとしている。カメラは4台、コンパクトなものから腰のケースに収納している本格的なものまで。

たなびく薄雲の下にまさに360度の展望を楽しむ。

Ｆさんも初めての山とのこと、当方から、心強いので一緒に下りましょうと誘った。3時過ぎ下山にかかるが彼は途中、写真を撮るために立ち止まる。彼を置いて行く分けには行かないので気が急くがつきあう。

シャクナゲの群落が道に覆い被さる樹林を抜けて尾根道を下り、登り返して樹林の中の御祝山に着く、16時過ぎ。ここまで来れば薄暮のうちに下山できるだろうと思った。

少し休憩し、Ｆさんを先頭にして下って行く。道があやふや、踏み跡らしきところが沢山あり樹木も生い茂り暗く、目印の古くなり汚れた赤や黄のテープを見失ってしまう。ピンクの色テープをたどって行くと途中で道がなくなってしまう。横に移動するテープも途中で途絶えてしまう。

さて迷ってしまった、尾根と谷が幾筋もあり、下る尾根、谷が違えば全く別のところに行ってしまう。

Ｆさんは前日にインストールしたばかりのＹＡＭＡＰ（登山用ナビ）を使って現在地を確かめる。自分が道らしき所を先行し後方でＦさんがナビとの差異

を確認する方法で進んで行く。次第に暗くなってきた。ヘッドランプを点ける。

問題が発生した。Ｆさんの携帯の電池容量が残り少なくなってきた。ビバークを覚悟する。自分は簡易テントを持参しているがＦさんはおそらく持っていないだろう。

18 時を過ぎ山の中は完全に暗くなってきた。

道を探りながら歩いていると樹木が切れて、道らしくなってきて進行方向に目印のテープも確認できたところで休憩する。ようやくなんとか登山道に復帰できたことを二人で喜ぶ。ホットして給水していると、Ｆさんがアッと声を上げる。なんとカメラ 4 台のうち腰のバックに収納していた大きいカメラをなくしたとのこと。一番高価なものだという。

明日再度登って探してみたらと言ったが、迷っている際に落としたので見つからないだろう。

途中林道に出合ったところに標識のない別の山道がありその道を進んでしまったが、四つの目で確かめながら登山口の万年橋にたどり着く。18：45、

道迷いで 1 時間以上のタイムロスだ。でも無事下山できたことを素直に喜ぶ。Ｆさんは水も切れていたらしい。

里山の怖さを再認識した山行だった。景勝地の遊歩道は良く整備され、案内板や説明板も設置されているが、そこから奥の方は大変不親切な山だった。特にこの山は尾根や渓谷が複雑で、登りの場合は道に多少迷っても上方に登って行けば頂に達するが、下りの場合は歩く速さがあり、ちょっとしたところで目印を見失いやすい。また林道などの作業道がいくつかあり、それぞれが自分だけに分かるような目印を付けていた。ピンクのテープは四国電力の送電線に行くための目印のようだ。

以前にも標高の低い里山で同じような体験をしている。二百名山、三百名山の特に標高の低い里山は要注意で、登山者が少ないときや天候によっては逆に難易度が百名山よりも高い場合がある。

宇和島市津島のビジネスホテルに 20 時過ぎに着き、所内のレストランで食事する。地元の家族連れが会食していた。

すぐ近くの宇和島漁港から水揚げされたサバの刺身と太刀魚の塩焼きを注文したが、それぞれ一匹分が出てきたのでそれだけで満腹した。鯖は脂がのっていて、醤油のせいかと思うほど旨みが濃かった。白身の太刀魚はあっさりしていて塩によって旨みが引き出され満足した。アルコールの周りが速い。就寝。

○11/3　篠山

5 時起床。準備し国道沿いにしかないという近くのコンビニでパンと飲み物を調達し、愛媛県道 4 号線を、篠山登山口を目指し内陸部に入っていく。夜明け前、次第に白んできて青空が広がる空と黒い南伊予の山の連なりとの対比が素

晴らしかった。思わず車を停めて写真を撮る。

道路地図で確認しながら進むがなかなかガイドブックに書いてある所には行き当たらない。ようやく集落のあるところで散歩中の人と出会い登山口への道を尋ねる。

篠山トンネルを抜け大規模林道の八合目第一駐車場登山口に6：50着。雲一つない快晴だ。トイレも整備され、案内の看板も立派なものだ。篠山は四国南西部の最高峰で足摺宇和海国立公園内、山頂一帯は特別保護区域に指定されているとのこと。南伊予の霊山として山岳信仰の対象となっていて、季節的にはアケボノツツジに包まれる4月下旬から5月初旬が多くの人が訪れるとのこと。今日は誰もいない。

7：20出発、階段を上る。100m毎に標識があり分かりやすい。山頂手前に網の柵があり、ニホンジカの食害で全滅したミヤコザサ復活のため山頂付近周辺2ｋｍにわたり網で包囲されているとのこと。

網の内部は篠山神社の境内で、ほとんど自然のままの姿を保っている原生林は「蓮華の座」と言われているとのこと。ヒノキの巨木や途中から枝が数本阿修羅の腕のように出て空を持ち上げるように延びているような異例（異様な？）の天然の木もある。アケボノツツジ保護のための「入らずの森」分岐（柵）を右へ行くと長い石段の先に篠山神社があった。こじんまりしているが立派な社殿だ。ここまで50分、8：10着。

山頂は神社のすぐ後ろの岩が散在する所に二等三角点標石があり、「南伊豫國」「北土佐國」と刻まれた古びた標柱石が建っていた。

山頂からは、北に前日登った三本杭等の鬼ヶ城連峰、西に宇和海に浮かぶ小さな島々が見えているが、暖かくて霞んでいて九州はよく分からなかった。東から南にかけては西土佐の山々が、軽そうな雲が浮かぶ青空の下にうねっていた。眼下の山の紅葉は始まったばかり。

バナナとパンの朝食を食べゆっくりと景観を楽しむ。　体が冷えてきた。

一升瓶が2本献上されている社殿で500円玉を賽銭箱に入れ家族と友人の健康を祈念し、二礼、二拍手、一拝、一礼する。

9時、往路を下山する。途中でスニーカーの若者が登ってきた。

9：35駐車場着、9：50、幸徳秋水生誕の地高知県四万十市中村に向けて出発。

○幸徳秋水は、高知県幡多郡中村町（現四万十市中村）で酒造業と薬種業を営む町の有力者の家に生れる。明治時代のジャーナリスト、思想家、社会主義者、無政府主義者。1910年大逆事件で逮捕され翌年処刑された（39才）12人の一人。（ウィキペディア）

高知地方検察庁、高知地方裁判所裏手の細長い墓地（正福寺）の中程にある

秋水の墓に線香を手向け合掌。平成13年、当時の中村市議会は、「幸徳秋水を顕彰する決議」を全会一致で議決したと説明板に書かれていた。

すぐ近くのことぶき屋という酒屋で焼酎を購入し、サンリバー四万十物産館で食事して、一路徳島県の奥祖谷地方を目指す。

黒潮町の海岸沿いに走っているとお遍路のご夫婦が歩いていた。写真を撮りたくて車を停めて待っていて話しかけた。山形市の人で、続けて60日間かけて八十八ヵ寺を回っているとのこと。60日間も続けて家を空けることができることに驚く。四国を移動中、お二人の他に5〜6組のお遍路さんを見かけた。

高知自動車道四万十町ICから無料区間に乗り途中有料となって大豊ICで下り、大歩危（おおぼけ）を経由して、所々車が相互通行できない道路を通り、徳島県の奥祖谷（おくいや）、名頃登山口近くの丸石パークランドに着いたのは日がとっぷりと暮れた18時を過ぎていた。

食事は、こんにゃくの刺身、アマゴという魚の塩焼きやきのこ料理、温かいそばなど美味しくいただいたが、米のご飯はまずかった。

40台後半くらいの女将さんとお母さんの二人でやっているらしい。部屋数が結構多かったので以前ははやっていた旅館というか民宿だったようだ。その日に三嶺を登ったお客さんがいて近道の登山口を図に書いて教えてくれた。

いろいろ話しているとお母さんは75才で、民謡の先生ということ。有名な祖谷の粉ひき節（いやのこひきぶし）で日本民謡協会の全国大会で優勝したこともある大家だった。

自分も昔習ったことがあるので酔った勢いで唄ってみたが、節回しを直された。祖谷の粉ひき節には西祖谷（にしいや）と東祖谷（ひがしいや）の粉ひき節があり、毎年10月初めに地元（東祖谷歴史民俗資料館）で全国大会があり、予選には二百名以上の参加者があるとのこと。大会のビデオを流してくれた。お母さんが両方の粉ひき節を唄ってくれた。

少し腰が曲がっているおばあさんとは思えない声量で地元の人しか醸し出せない雰囲気の歌に感銘した。明日の三嶺登山がなければ、お酒をいただきながらもっと祖谷の粉碾き節を習いたかった。心残りながら就寝。

○11/　三嶺

5時起床。6時朝食。6時半宿舎発。

名頃登山口駐車場では屋根付きの舞台の上で、等身大より少し小さいおばあさんや子供達などいろんな格好をした10体以上の案山子（かかし）さんが出迎えてくれた。

準備し6：50出発。昨夜教えて貰った近道は落葉が始まった自然林の道で歩きやすい。東の黒い山と、山々の間の青空、コントラストがすがすがしい。7：30林道との合流点着。林道経由の若者が先着していた。ここから樹林帯の尾根

道に入り、途中一緒になった高松市の登山者と話ながら登る。72 才とのこと。暗いうちに剣山（つるぎさん、百名山、1955m）の下山口に自転車をおき、名頃登山口から登り三嶺から剣山まで縦走し、最後は下る一方の舗装路を 30 分くらい自転車で登山口まで戻るという。歩行時間は 10 時間とのこと。いろいろ考える人はいるものだと感心する。75 才になったら八十八ヵ寺遍路を始めるとのこと。

樹林帯を抜けると膝くらいまでの美しい笹原が広がり左手に剣山に至る縦走路の山が谷を挟んで見える。ところどころにあるコメツツジの紅葉は盛りが過ぎてくすんでいる。

急勾配を登り切った斜面の窪地に池があった。枯れることがないとのこと。右手の県営の三嶺ヒュッテには寄らずに山頂を目指す。

9：40 山頂着。先客が 5 人。高松の人は山頂で休まずに剣山への縦走路に降りていった。

徳島と高知の県境、小広い山頂からは 360 度の展望が得られ、美しい笹原と雄大な山岳景観、笹原を縫って一筋の縦走路が続く。剣山から派生する支脈の連なり、高知県、徳島県にまたがる四国山地、素晴らしい眺めだ。登って良かった。

9：50、縦走路を西の天狗塚に向けて出発する。振り返って眺める三嶺の姿も美しい。10：40 西熊山（1816m）山頂着、西山林道登山口から登ってきた登山者が写真を撮っていた。

一端下り、「お亀岩」から登り返し天狗峠のケルン 11：20。峠から見る天狗塚はピラミッドのようだ。緩やかに下って登ると狭い天狗塚の頂に出る。眼下に広がる牛の背の笹原を歩くグループがいる。振り返ると三嶺からの縦走路。西方面の眺めも素晴らしい。山頂では若い男女がシートに座って談笑、楽しげな独自の空間。

小腹を満たし 12：00 下山開始。13：30 久保発のバスには間に合わないが先を急ぐ、途中からタクシー会社に電話するが電波環境が良くない。

天狗峠を経て、笹に隠れたえぐられた道を下り、樹林の中を通り、14 時前西山林道登山口着。道路脇に数台の車が停めてある。タクシー会社に電話すると、久保までの山中の下山道は時間は短いが、10 人中 8 人が道に迷うので舗装路の林道を来るように言われ、約 1 時間半かかるとのこと。迎えに行きますという言葉を期待したが言われなかった。

一昨日の三本杭での道迷いのこともあるので、素直に舗装路を歩くことにした。10 分ほど下って行くと、熟年男性二人の登山者が林道を上って来た。天狗塚から別ルートで下山し車まで戻るとのこと。久保まで歩くと応えたら、そのうちの一人が乗せてってくれるとのこと。20 分ほど歩いたらランクルが停まり乗せて貰った。もう一人は山で一緒になった人で別行動とのこと。舗装路を山

靴で歩くこと、1時間くらいの時間短縮を考えると、本当にありがたかった。高知市の人だった。

久保の小さなタクシー会社は店が閉まっていて、車庫には救急車とワゴン車があるだけだった。困惑しながら声をかけると熟年のおじさんが顔出し大丈夫だという。ちょうど剣山のお客さんを迎えに行くことになっていて、名頃は途中なので都合が良かったみたいだ。ワゴンタクシーに一人乗って約30分、15：20名頃の駐車場着。

16：00、翌日の伊予富士登山のため高知県いの町桑瀬の木の香（このか）温泉を目指す。大豊IC近くまで戻り最後は住家のない山道を通り18：40木の香温泉にたどり着く。

19時からの食事はピアノのジャズが流れるレストランで、地元高知県の食材を使った和洋の料理で洗練されている。独り占めの温泉につかり就寝。

○11/5四国4日目最終日　伊予富士（いよふじ、1756m）

高知・愛媛県境の伊予富士は、2年前に登った寒風山・笹が峰（三百名山）の登山口と同じ旧寒風山トンネルの高知県側入口から登る。前回は雨のためスタートが遅くなり、峠を挟んで反対側の伊予富士が残ってしまった。

8：40登山口発。今回は晴れて真っ盛りの紅葉の中気持ちがよい。この道はかつて伊予と土佐を往還する道でジグザグの道は一辺が長く傾斜も緩く歩きやすい。9：25桑瀬峠着、ここから前回と反対方向に進む。道の両側の笹は膝から腰くらいあり、前日の三嶺の笹よりも丈がある。傾斜もきつくなく朝露はなくなっていて快調に歩を進める。そよ風に笹が揺れカサコソと音を立てる。振り返ると厳つい山容の寒風山が近くにある。その右手奥に笹が峰。10時、緩やかな稜線の先に伊予富士の全景が見渡せる所ところで、写真を撮り友人達にラインで送る。穏やかなコブを連ねた稜線は富士山らしくない。

友人から“どこが富士山じゃ～と、突っ込みどころ満載の伊予富士だね”との返信があった。

気持ちの良い鞍部を歩き山頂直下の急斜面を登り切ると岩のある狭い山頂に着く、11時。素晴らしい展望が待っていた。

東に寒風山と笹ヶ峰、西には菅田将暉と中條あゆみ出演のトヨタのＣＭで使われているＵＦＯラインこと“瓶が森林道”がきれいなシュプールを描いている。その先に瓶が森、その左手奥に四国最高峰の石鎚山（いしづちさん、百名山、1982m）がどっしりと構えている。

自分と同じ方向から一人、西側の瓶が森林道から一人、地元の人が登ってきた。愛媛と高知の人だった。

山の話になり、自分が三本杭で迷った話をしたら、御祝山を下山に使うと慣れている地元の人でも迷うことがあるということだったので、変に納得した。

11：50 下山開始、登るときに写真を撮ったところで伊予富士の全景をしっかりと心に刻む。日が昇り陰影が出てきてより立体的な山になっていた。
ユッタリした雰囲気のある桑瀬峠で食事をしている男女のペアがいた。
13：13 駐車場着。四国山行 3 回目、四国の日本三百名山 9 つの山を終了。

ナビで松山市の道後公園を目指す。道後温泉本館の周りには東南アジア系の外国人観光客が沢山いた。自分も初めてだったので入湯料 410 円、石けん代 40 円を払い入ってみた。大きな古い建物の中にはお客さんが沢山いて、白人の人も入浴していた。数を数えて 10 分間入っていた。お湯は温めで、ぬめりがなくスッキリしていた。外に出てツアー客を待つ添乗員らしき人に写真を撮って貰い、アーケードでお土産を買い、車を停めてある国史跡湯築城跡（ゆづきじょうあと）の道後公園に向かう。
夏目漱石が教鞭を取り、「坊ちゃん」の舞台となった旧制松山中学校、現松山東高校に寄ってみたが、時間が足りず散策はできなかった。ここは京都に住む友人の母校でもあるが、次回の楽しみに取っておくことにする。
18 時ぎりぎりに車を返し、ザック 2 つを背負い、中村で買った焼酎一升瓶 2 本が入った荷物を両手にぶら下げて駅まで歩き、身動きが制限されて選択の余地なく、2 日朝松山駅に着いたときに気がついた駅並びの“喜多方ラーメン”の店に入り時間を過ごした。聞くと喜多方ラーメンに感銘したオーナーが麺とスープを喜多方から直送して貰っているとのこと。自分はその店独自の八幡浜ちゃんぽんを食べた。おいしかった。
賑やかな女性 4 人が入ってきた。英語で話しているので尋ねたらシンガポールからの観光客で日本に 17 日間滞在し、既に来たことがある東京や大阪を除く西日本を観光しているとのこと。岡山、広島、博多、大分、四国等。
互いに“Good　Luck”と言って、手を振って店を出る。
19：20 松山駅発のバスに乗る。
○11/6（火）
予定より 30 分早く 7 時東京駅着。ちょい高めの駅弁を買い、自宅 9 時着。天候に恵まれた四国の三百名山（＊）の旅を無事終わる

＊　四国には日本三百名山が 9 つある。百名山：剣山、石鎚山。二百名山：東赤石山、山嶺。三百名山：笹ヶ峰、伊予富士、瓶ヶ森、三本杭、篠山。　10 年以上前に、百名山の 2 つは登っていた。2 回目が平成 28 年 10 月の 3 山、東赤石山、笹ヶ峰、瓶ヶ森。そして今回が残りの 4 山。3 回とも東京から夜行バス利用。

平成３０年１１月　ＮＯ７３　　アンチエイジング　山旅遊人

＜会社近況＞

事務所近くで新築工事をお世話になっておりますが、お陰様でもう間もなく完成いたします。
この度完成内覧会を行うことになりましたので、ご案内させていただきました。

「築生庵（ちくしょうあん）」 完成内覧会のお知らせ

日 時　　**11／ 24(土) ・ 25(日)**
午前 9時 ～ 午後 16時

場 所　　**本宮市糠沢字東禅寺 102－9**

…築生庵…とは、

「想い」です。

若い頃の失敗、他人にかけた迷惑、親にかけた心配、そんなつらい想いを心のどこかでどうにか清算して、肩の荷を下ろして、下を向いている顔を少し上げて前を向いて生きられたらいいなあという「想い」で生きたいなあ。そうする為に新しい終の棲家（庵）でリセットした「想い」で生きたい。思い切ってみませんか。終の棲家「築生庵」で生きてみませんか。

※　簡単な地図でわかりずらいかも知れませんが、ぐにゃぐにゃした山道をどこまでも登って来て下さい。山道ですので、対向車輌には十分にお気を付け下さい。

・・

平成３０年１１月５日発行
有限会社　幸田建設
＜発行責任者＞幸田久美
〒９６９－１２０４
本宮市糠沢字八幡１番地１
電話０２４３－４４－３８１６

✿後記✿

お陰様でこの度完成内覧会を開催させて頂くことになりました。
役員並びに社員一同御礼申し上げます。
どうぞお気軽にお越し下さい。お茶の準備をしてお待ちしております。

（事務所K）